

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] Your phone can translate a sentence in a second. It can read a menu through the camera, and it can speak for you in a country whose language you have never studied. So a simple question comes up: if machines can translate, why do we still study English?

[2] It is true that machine translation has become much better. For a short email or a train announcement, it is often enough. Many travelers now use it without any trouble. We do not need to pretend that this is not useful.

[3] But translation is not just changing one word into another word. Languages cut the world in different ways. In Japanese, we say that the traffic light is *ao*, the same word we use for the sky. In English, people call it green. Neither language is wrong. They have simply drawn the line in a different place. The line is not in the world. It is in the language.

[4] There are many examples like this. Japanese has a word, *yu*, for water that is hot, and English has no single word for it. English just says hot water. Neither way of speaking is more careful than the other. When you meet these differences, you notice something surprising: the way your own language divides the world is only one way, not the only way.

[5] This is what a machine cannot give you. A machine gives you the answer. It does not give you the moment of surprise before the answer. And that moment is where learning happens.

[6] So here is a small suggestion. Keep using your translation app. But once a day, stop at one sentence and ask why the English says it that way. You do not have to find the answer. One sentence a day is enough. Asking is already the study that no machine can do for you.

〔語注〕 translate＝翻訳する (translation＝翻訳) announcement＝アナウンス・お知らせ pretend＝ふりをする divide＝分ける

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語 (But / Yet / however) に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

訳せる時代に、なぜ学ぶのか 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ 思考・判断・表現 答え（ ）

3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ 思考・判断・表現 答え 3点
（ ）

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 機械翻訳について、筆者はどう述べているか。 知識・技能 答え（ ）

3点

- ア まだほとんど使いものにならない
- イ 短い文なら、それで足りることも多い
- ウ 旅行では使わないほうがよい
- エ 学校での使用は禁止すべきだ

(2) 信号の色について、本文の内容に合うものは。 知識・技能 答え（ ）

3点

- ア 日本語では、空と同じ語を使っている
- イ 英語では、空と同じ語を使っている
- ウ 日本語と英語で、同じ語を使っている
- エ 英語の言い方のほうが正しい

(3) 「湯」の例を挙げて、筆者が言おうとしていることは。 思考・判断・表現 答え（ ）

3点

- ア 日本語のほうが、語がたくさんあってすぐれている
- イ 英語では、湯と水を区別しない
- ウ 言語によって、世界の分け方がちがう
- エ 英語には、湯にあたる1語がないので不便だ

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 「機械にはあたえられない」と筆者が言っているものは何か。20字以内で書きなさい。 思考・判断・表現 5点

訳せる時代に、なぜ学ぶのか（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	It is true that ... が譲歩の合図。「機械翻訳は役に立つ」という反対側の言い分をここでいったん引き受けている。エは[6]段落の働き。
(2)	イ	But translation is not just changing one word into another word. が転換点。譲歩（[2]）→転換（[3]冒頭）→具体例（[4]）→主張（[5]）→提案（[6]）の型。
大問2 内容の読み取り		
(1)	イ	[2]段落 For a short email or a train announcement, it is often enough.
(2)	ア	[3]段落 the traffic light is ao, the same word we use for the sky. 直後に Neither language is wrong. とあるのでエは切れる。
(3)	ウ	[4]段落の結び the way your own language divides the world is only one way. アとエはどちらも「優劣」の読み方で、この文章がいちばん避けている方向（Neither way of speaking is more careful）。イは hot water と言い分けている本文と食いちがう。

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 「機械にはあたえられない」と筆者が言っているものは何か。20字以内で書きなさい。5点

答案を知る前の、おどろく一瞬。

配点	その点を与える条件
3点	「答案の前」「先に」など、順番に触れている
2点	「おどろき」「気づき」にあたる語がある

「学び」とだけ書いた答案は2点（[5]段落の最後の文だけを写している）。この問いは the moment of surprise before the answer の before が取れているかを見る。



訳せる時代に、なぜ学ぶのか（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

この英文は譲歩→転換→主張→提案の型で書いてあります。大問Iで段落の働きを問うのは、内容一致をいくら重ねても「論の運び」は測れないから。第2段落で相手の言い分を認め、第3段落の冒頭で切り返す—この折り返しが見えている生徒は、要約でも自由英作でも軸を外しません。定期テストの読解大問をこの型で設計すると、知識・技能（明示情報・和訳）と思考・判断・表現（論の展開・要約）を1つの英文で分けて測れます。題材は生徒自身の「なぜ英語を学ぶのか」に触れるので、読んだあとの活動（意見文の設計図・ミニディベート）にそのまま渡せます。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。内容一致では測れない力で、記述式の前段になる
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか。要約指導の入口
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。構文と語彙の精度をここで測る
内容説明（記述）	思考・判断・表現	本文の抽象語を自分のことばに置き換えられるか。部分点の刻みつき
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する（刻みは裏面）

大問Iは3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問Iだけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。